

第3号

南栗遺跡 発掘たより

2022年12月9日発行

5月23日（月）に開始した南栗遺跡の発掘調査は6ヶ月がたちました。酷暑を乗り越えての調査はすでに過去のものとなり、今は雪化粧した北アルプスを眺めての調査を行っています。山を覆う雪は、日を追うごとに広がり、遺跡に雪が舞うのも時間の問題となりました。36年前に行った長野自動車道建設に伴う発掘調査が想起されます。

今回の発掘たよりでは、3基発見された平安時代の木棺墓^{もっかんぼ}を紹介します。



雪が被った北アルプス
(左下は南栗遺跡プレハブ)

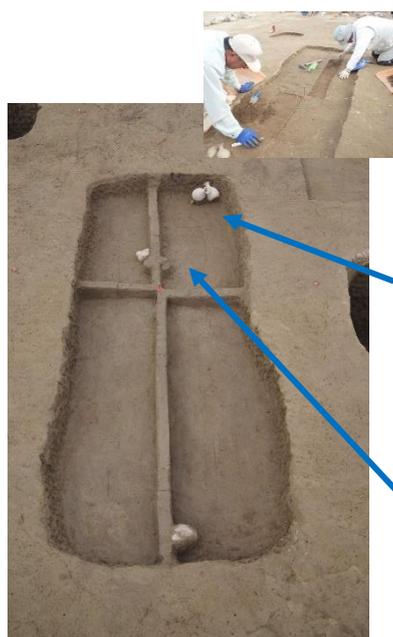


長野自動車道建設に伴う南栗遺跡の発掘調査
(1985年12月：河西克造 撮影)

◆ 平安時代の木棺墓発見

木棺墓の形状は長方形で、長辺2m、短辺0.8mの規模です。3基（SK02・11・12）とも長辺が南北方向で、木棺の木質部は残っていませんでしたが、土の色の違いから、木棺の範囲が確認されました。木棺内から歯が出土し、その位置から北に頭部を置き埋葬されたことがわかりました。SK02 とSK11 では、完全な形をした土器がまとまって出土しました。

SK11 では、灰釉陶器^{かいゆうとうき}の小瓶^{しょうへい}



SK11 全景
(写真上が北)



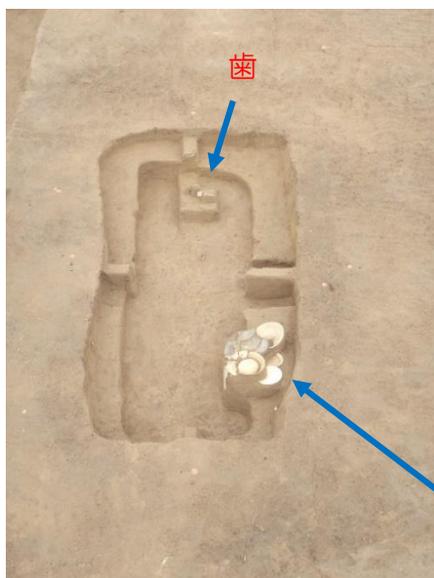
小瓶の出土状況



歯の出土状況

、SK02 では灰釉陶器の皿、
碗、内黒土器の坏がまとまっ
て出土しました。埋葬時に副
葬したものと思われます。木
棺墓の時期は、出土した土器
から 10 世紀に比定されま
す。なお、SK12 では完形の
土器が出土しませんでした
が下顎の歯が残っていました。

発見された木棺墓の時期か
ら、奈良・平安時代に展開し
た南栗遺跡の集落が 10 世紀
頃に減少し、葬地になっていく
様子がわかってきました。



SK02 全景 (写真上が北)



調査風景

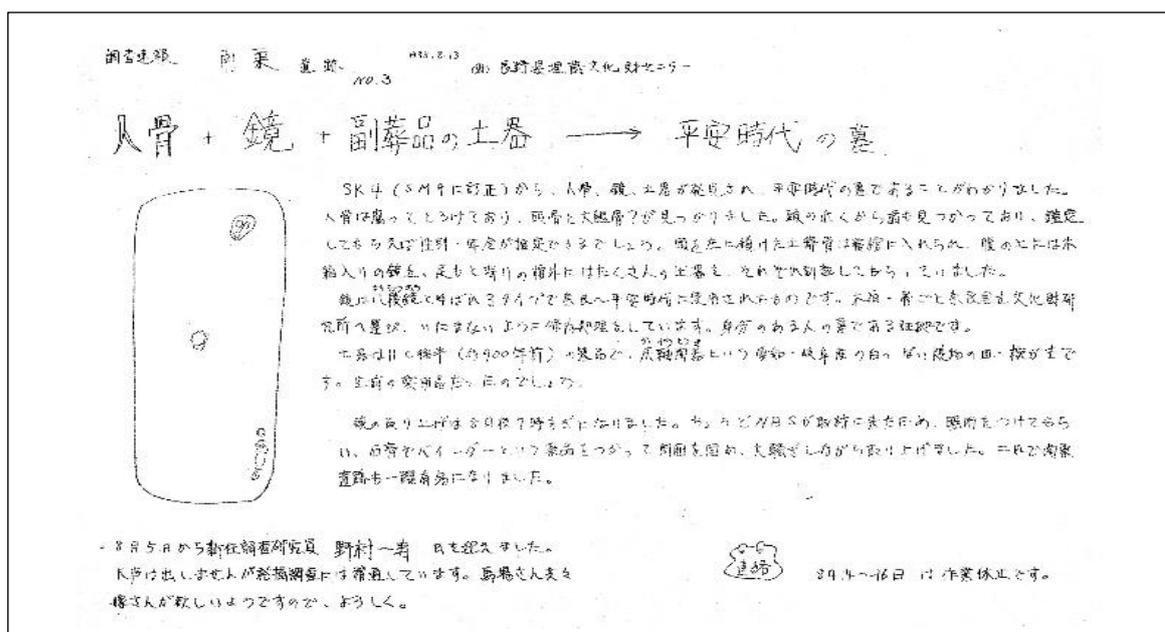


土器出土状況

◆ 埋文センター発掘今昔

長野県埋蔵文化財センターで行う発掘調査では、「発掘たより」の発行などを行い、発掘成果を関係機関や地元（地域）の方に伝える情報発信を行っています。

今回の調査では、写真や多色刷りの図・表を掲載し、パソコン上で編集したオールカラー版の「発掘たより」を発行していますが、1985・86 年の長野自動車道建設に伴う南栗遺跡の発掘では、手書きで輪転機を使って印刷したモノクロ版の「調査速報」（下、B4 判）を発行していました。発掘成果を情報発信するという目的は同じですが、新しい器機の登場などにより、「発掘たより」（調査速報）は手書きモノクロから現在の姿と変わってきています。



1986 年 8 月に発行した「調査速報」
（鏡が出土した平安時代の墓を紹介）

長野県埋蔵文化財センター 南栗遺跡班
担 当：河西克造/平林 彰/大竹憲昭
携 帯：070-4132-8528
メー ル：maibun@naganobunka.or.jp
HP：https://naganomaibun.or.jp